

海の森化粧品の匂い(香り)について

木酢液や燻製の匂い(香り)に例えられる海の森化粧品独特の匂いは、抗酸化作用のある植物群が放つ天然の芳香成分で、老化防止・美肌に重要な成分(精油・天然ビタミンE等)が含まれています。

後から付けた人工の匂いではありませんので、しばらくすると分解され無臭となります*。肌や髪の毛に残る匂いではありません。

独特の香りがするため、特に日頃芳香剤や香料などの人工的な匂いに慣れている方にとっては、不快に感じる場合があります。

しかし、元々森の住人である「ヒト」にとっては、脳や体が受け入れてくれる(リラックス作用をもたらす)匂いであり、早い方で2-3日程度で不快さを感じなくなり、慣れてくるとむしろ手放せなくなる(イライラした時などに嗅ぐと落ち着くなど)不思議な匂いです。

※芳香剤などの一般的な消臭方法(マスキング)とは違い、樹木や植物が放つ匂い(揮発性成分)には、空気中のニオイ物質と結びつくことで分解消臭し(化学的中和反応)、無臭の物質に変わるという特性があります。

●自然由来の刺激は、ヒトが不快と感じてもストレスにならない

通常、自分が不快(イヤだ)と感じる匂いや感触に対しては、血圧上昇、脈拍数増加、瞳孔拡大、抹消血流低下、精神性発汗の増大など、体は交感神経優位のストレス状態となります。

しかし、自然由来の刺激に対しては本人が不快であると感じた場合でも、リラックスする、あるいはストレス状態にならないことが報告されています。

元々ヒトは森の住人で、今のような人工的な生活が始まったのは200年ほど前。ヒトの歴史500万年の99%以上は自然の中で過ごしてきたことになります。

そのため、人の身体は「自然」に対応するようにできており、自然由来の刺激に不快と感じてもストレス状態にならないのは、不思議なことではなくむしろ当然のことなのかもしれません。

ただし、自然由来のモノでも濃度が濃すぎる、あるいは加工したモノなどはストレスをもたらす場合があるので注意が必要です。特に匂い(嗅覚)は、視覚刺激など他の刺激とは違い、感情を支配する大脳辺縁系にダイレクトに刺激が伝わります。感情に影響を与えやすいため、低濃度・無加工であることはとても重要です。